
駄菓子屋の娘と八百屋の息子

羽衣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

駄菓子屋の娘と八百屋の息子

【Nコード】

N0766Y

【作者名】

羽衣

【あらすじ】

毎年、毎年、あいつは懲りずにやってくる。
そして、今年もこの時期がきた。
サイトで掲載していた短編です。

「とりつく おわ とうり〜」

「あんだ、この時期になるとずっと言っているわね…」

「そういう君は毎年、無視してるよね〜」

「当たり前じゃない、なんで私があ・ん・たに！！お菓子をあげなきゃいけないわけ？？」

「ハロウィンだから??」

「絶対にやらない…。」

「まあまあ、一回でもいいから『とりつく おわ とうり〜』って言ってみて〜」

「なんで、言わなきゃいけないのよ?」

「少しは行事に参加しようよ〜」

「気分だけでも参加しているから結構よ。」

「だめ！今年こそは言ってもらっ!」

「あんたも毎年飽きないわね〜、そういえば、仕事行かなくてもいいの??」

「去年もそう言って逃げられたから、今年は休みをとった！」

「あんた、アホ??」

「ねっ、言ってみて??」

「はあく、『Trick or treat』これでいいの??」

「はい、お菓子」

「飴玉一個もらつよりあんた家の野菜のほうがいいわ……」

「とりあえず、あけてあけて」

『ガサガサ』

「飴玉じゃ……ない……??」

「俺と結婚してください。」

飴玉の入っている場所にはキラキラ光る指輪が1つ入っていた。

++++おまけ++++

「って、言うわけでなんかわかんないうちに結婚したのよね」

「ママ…そんなこといったらパパが泣くよ…」

「泣かしとけばいいのよ、あんなやつは！」

「そんなこと言って本当は会いたいくせに」

「うるさい！だいたい、残業つてなによ！常日頃、ちゃんと働いていないからこんなことになるのよ！」

「だって、パパ、どうするの??」

「今度からちゃんと仕事するから許して」

「か、帰ってきてたの!?!」

「うん、さきほど…」

「…ちゃんと好きだから…」

「うん、わかっているよ」

「…勝手にやってて」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0766y/>

駄菓子屋の娘と八百屋の息子

2011年10月31日19時32分発行